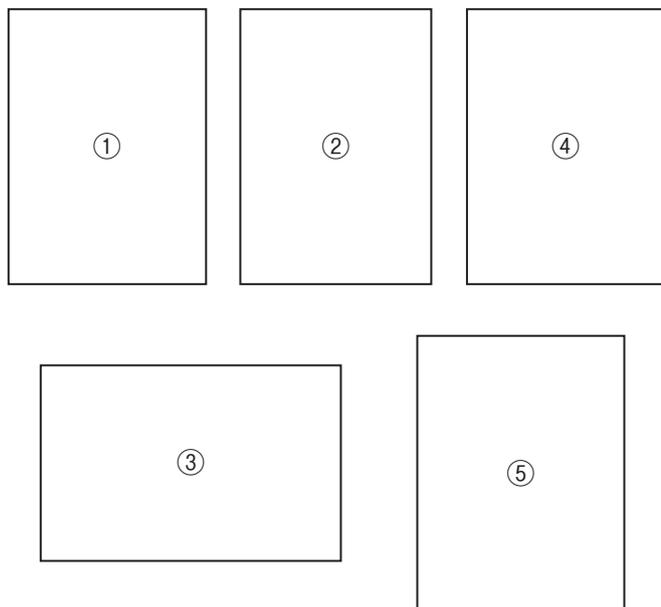




# 平成 23 年度京都府統計グラフコンクール入賞作品



表紙は、平成 23 年度統計グラフコンクール京都府知事賞入賞作品です。

なお、知事賞以外の入賞作品は、56頁から掲載しています。

統計グラフコンクールは、府民のみなさんの統計知識の普及と統計の表現技術の研さんを目的に毎年募集しています。

詳しくは、京都府ホームページ（「京都府統計なび」で検索できます。）をご覧ください。

（募集要領は5月頃公表、締切は9月上旬）

### 【問い合わせ先】

京都府政策企画部調査統計課

電話 075-414-4487

FAX 075-414-4482

- ① 「たんごとなはのお天気しらべ」（小学校1・2年生の部）  
京丹後市立鳥取小学校・2年生 宇野 遥香 さん
- ② 「商店街のエコ活動」（小学校3・4年生の部）  
京都市立岩倉南小学校・4年生 佐藤 正嶺 さん
- ③ 「守ろう自然 in 与謝野」（小学校5・6年生の部）  
与謝野町立山田小学校・5年生 塩見 璃子さん、足立 和音さん
- ④ 「でんき予報の効果」（中学生の部）  
立命館宇治中学校・1年生 廣瀬 紗千さん
- ⑤ 「古墳のメッカ、丹後」（パソコン統計グラフの部）（第59回統計グラフ全国コンクール奨励賞）  
与謝野町立加悦小学校・6年生 藤田 桂さん

京都府知事賞は各部1点（23年度は第5部該当なし）。京都市長賞、京都府教育委員会教育長賞、京都市教育委員会教育長賞、京都新聞社賞、KBS京都賞は、各1点。佳作は数点（23年度は5点）。

部門	応募資格	入賞作品数 (人数)	応募作品数 (人数)	部門	応募資格	入賞作品数 (人数)	応募作品数 (人数)
第1部	小学校1・2年生	3(3)	7(11)	第5部	高校生以上・一般	—(—)	—(—)
第2部	小学校3・4年生	3(3)	19(19)	パソコン統計 グラフの部	小学生以上・一般	4(4)	75(224)
第3部	小学校5・6年生	3(4)	51(54)				
第4部	中学生	2(2)	238(238)	合 計		15(16)	390(546)

# ま え が き

この度、平成 23 年度版「統計でみる府民の暮らし」を作成しました。

この冊子は、京都府の人口、経済、社会、文化など広い分野にわたる主要な統計資料をグラフ化し、解説を加えて分かりやすくまとめ、府民の皆様に統計に親しんでいただけるよう編集したものです。

身近な統計資料として広く活用していただければ幸いです。

平成 24 年 3 月

京都府知事

山田啓二

# 目 次

シンボル・なりたち	1	観 光	27
位 置	2	住 宅	28
地勢・気象	3	道路・運輸	29
人 口	4	情報通信	30
消費者物価	8	交通事故・火災・救急	31
家 計	9	犯罪・少年非行	32
労 働	10	教 育	33
環 境	12	文 化	35
エネルギー	13	生活時間	36
医 療	14	府民経済計算	37
健 康	16	財 政	39
社会福祉	17	統計でみる府の位置づけ	40
農 林 業	18	京都府の一日	41
漁 業	20	統計調査実施一覧	43
事 業 所	21	市町村の現況	44
工 業	22	都道府県の現況	50
商 業	25	京都府統計グラフコンクール入賞作品	56
国際交流	26		

## 利用者のために

- 1 統計グラフで「年」とあるのは暦年（1月～12月）、「年度」とあるのは会計年度（4月～翌年3月）を示し、年月日は調査時点を示します。
- 2 単位未満を四捨五入したために、総数とその内訳の計とが一致しない場合があります。
- 3 統計表の符号の用法は次のとおりです。

— 該当なし又は皆無	… 不詳又は資料なし
0 単位未満	X 数値が秘匿されているもの
- 4 詳しい統計は「京都府統計書」等を参考にしてください。

# シンボル・なりたち

## 京都府の府章



憲法公布 30 周年を機に制定。六葉形は古都の格調の高さ、中央は「京」の文字を表したもので、府民の連帯性と力の結合を表象しています。  
(昭和 51 年制定)

## 京都府の鳥（オオミズナギドリ）

舞鶴市冠島に 2 月から 11 月頃まで生息する渡り鳥。魚群を教えてくれるため“サバ鳥”とも呼ばれます。  
(昭和 40 年制定)



## 京都府の花（しだれ桜）



流れるような柔らかさ、うす紅色の花をつけた美しさは京情緒そのもの。風雪に折れないシンの強さが、京都人氣質に通じます。  
(昭和 29 年制定)

## 京都府の木（北山杉）

京都市北区中川町一帯で生産される北山杉。木立が天に向かってまっすぐ伸びる姿は“伸びゆく京都”の象徴です。  
(昭和 41 年制定)



## 京都府の草花（嵯峨ぎく）



京都嵯峨の地に源を発する古典ぎくで、その名称からも、京都を強くイメージ・象徴しています。  
(平成 2 年制定)

## 京都府の草花（なでしこ）



古典によく詠まれ、また、鴨川の河原に「かわらなでしこ」が自生し、古来より府民に愛されてきました。  
(平成 2 年制定)

## — 京都府のなりたち —

京都は古くから文化が栄えてきました。府内各地では、原始時代や古代の遺跡が数多く発見されています。延暦 13 年（794）には平安京がつくられ、それ以来明治維新まで千年余の間、日本の中心として発展してきました。

京都府がはじめて設けられたのは慶応 4 年（1868）<sup>うるう</sup> 閏 4 月 29 日（新暦 6 月 19 日）のことで、その時はまだ山城国（現在の京都市から相楽郡までの地域）1 国でした。その後、明治 4 年（1871）の廃藩置県により区域は山城国の全部と丹波 3 郡（船井 = 現南丹市の一部及び京丹波町の一部、何鹿 = 現綾部市、桑田 = 現亀岡市及び北桑田郡（= 現南丹市の一部及び京都市の一部））になり、明治 9 年に隣接の豊岡県が廃止されたことに伴い、そのうち丹後 5 郡（加佐 = 現舞鶴市及び大江町（= 現福知山市の一部）、与謝 = 現与謝野町及び伊根町、中、竹野、熊野 = 現京丹後市）と丹波国天田郡（現福知山市の一部）が京都府に編入されました。さらに昭和 33 年には南桑田郡檜田村と亀岡市の一部が大阪府に編入され、現在の京都府の区域となりました。

京都府内の市町村数は、昭和元年には 268 でしたが、市町村合併、市町村制施行が推進され、平成 9 年 4 月に 12 市 32 町 1 村になりました。さらにその後の市町村合併により、平成 16 年 4 月 1 日に丹後 6 町（峰山、大宮、網野、丹後、弥栄、久美浜）が京丹後市となり、平成 17 年 4 月 1 日に京北町が京都市に編入合併され、同年 10 月 11 日に船井 3 町（丹波、瑞穂、和知）が京丹波町となりました。また、平成 18 年 1 月 1 日に他の船井 3 町（園部、八木、日吉）及び美山町が南丹市となり、天田 2 町（三和、夜久野）及び大江町が福知山市に編入合併され、平成 18 年 3 月 1 日に与謝 3 町（加悦、岩滝、野田川）が与謝野町となり、平成 19 年 3 月 12 日に相楽 3 町（山城、木津、加茂）が木津川市となり、現在は 15 市 10 町 1 村となっています。

また、京都府の開庁は、京都裁判所が京都府に改称されたのが明治元年（1868）で、今年で 144 年となります。なお、府庁舎は、明治 18 年（1885）に現在地に移されましたが、現旧本館の建物は明治 37 年（1904）に完成されたものです。

# 位置

## 京都府の位置

方位	地名	経度	緯度
東端	相楽郡南山城村	東経 136 度 03 分	北緯 34 度 44 分
西端	京丹後市久美浜町	〃 134 〃 51 〃	〃 35 〃 35 〃
南端	木津川市木津町	〃 135 〃 51 〃	〃 34 〃 42 〃
北端	京丹後市丹後町	〃 135 〃 13 〃	〃 35 〃 46 〃

注 世界測地系による。  
資料：国土交通省国土地理院

## 主要河川

河川名	上流端	延長(m)
桂川	京都市左京区広河原	112,830
由良川	南丹市美山町芦生	124,276
木津川	相楽郡南山城村字北大河原（三重県界）	51,600
土師川	船井郡京丹波町鎌谷奥	42,927
上林川	綾部市老富町	33,733
竹野川	京丹後市大宮町五十河	32,605
牧川	福知山市夜久野町板生	29,060
淀川 (宇治川)	左岸 綴喜郡宇治田原町（滋賀県界） 右岸 宇治市笠取（滋賀県界）	21,485 24,545
鴨川	京都市北区雲ヶ畑	23,045

注 淀川及び木津川の延長については京都府内の数値。  
資料：府河川課



## 主要山岳

山岳名	標高(m)	所在地
ア 皆子山	972	京都市・滋賀県
イ 峰床山	970	京都市
ウ 三国岳	959	京都市・南丹市・滋賀県
エ 鎌倉山	951	京都市・滋賀県
オ 地藏山	948	京都市
カ 天狗岳	928	南丹市
キ 愛宕山	924	京都市
ク 竜ヶ岳	921	京都市
ケ 長老ヶ岳	917	南丹市・京丹波町
コ 棧敷ヶ岳	896	京都市
サ 経ヶ岳	889	京都市・滋賀県
シ 品谷山	881	京都市・南丹市
ス 滝谷山	876	京都市
セ 頭巾山	871	綾部市・南丹市・福井県
ソ 鍋谷山	859	京都市
タ 比叡山	848	京都市・滋賀県
チ 三岳山	839	福知山市
ツ 大江山	833	福知山市・与謝野町

資料：国土交通省国土地理院

# 地 勢 ・ 気 象

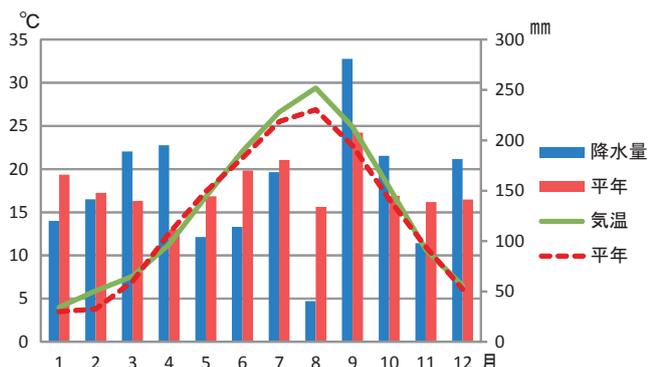
## 地 勢

平成 22 年 10 月 1 日現在の総面積は 4613.21k㎡で、国土の 1.2%を占め、47 都道府県中 31 番目の広さとなっています。

地形は北西－南東に長く、タツノオトシゴのような形をしています。

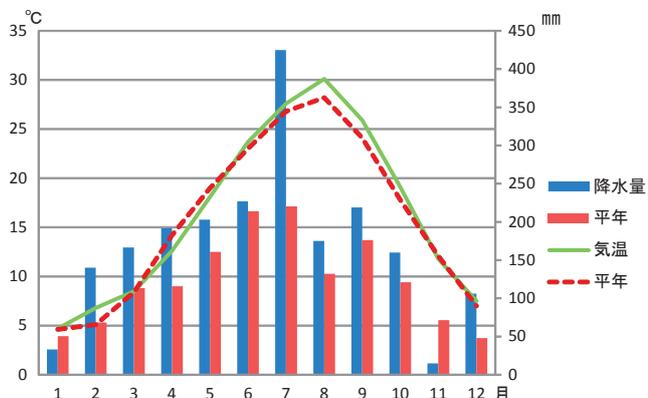
北部は日本海に面し、変化に富むリアス式海岸が続き、小規模な平野が開けています。中部は大部分が山地ですが、亀岡、福知山盆地のほか、桂川、由良川の支流に沿って小盆地や河岸段丘が発達しています。南部は桂川・淀川（宇治川）<sup>かなめ</sup>・木津川の合流点を要に、山城盆地が扇状に広がっています。

図1 平成 22 年 月別平均気温と降水量の変化  
(舞鶴海洋気象台)



注 平年値は 1981 ～ 2010 年平均  
資料：気象庁

図2 平成 22 年 月別平均気温と降水量の変化  
(京都地方気象台)



注 平年値は 1981 ～ 2010 年平均  
資料：気象庁

## 気 象

気象は、大阪湾に注ぐ淀川水系と日本海に注ぐ由良川水系の分水嶺に沿って南部と北部に分かれます。

北部は日本海気候、南部は瀬戸内気候の特性を示します。北部でも丹後半島地域は日本海側の特性が顕著で、福知山盆地から丹後山地一帯は内陸性の気候です。舞鶴湾・宮津湾付近一帯はその両者の中間の気候です。

これに対し、南部は亀岡盆地から南山城山間部にかけては、内陸性の気候です。京都市の市街地では、近年平均気温の上昇など、都市気候化の傾向が認められます。

平成 22 年の府内は、春の低温傾向と多雨、夏の顕著な高温、秋の高温傾向、年末の大雪などの特徴がみられました。

北部では、舞鶴海洋気象台の春 3 か月（3～5 月）間の平均気温は、平年を下回ったものの、夏から秋にかけてかなり高い傾向で、8 月の月平均気温が平年より 2.5℃高い 29.4℃と歴代 1 位（統計開始 1947 年以降）を記録しました。一方、降水量は、春 3 か月（3～5 月）間は、488mm（平年の約 1.2 倍）と多雨となり、12 月 31 日は大雪に見舞われ、月最深積雪 30cm と歴代 4 位（統計開始 1947 年以降）を記録しました。（図 1）

南部では、京都地方気象台の春 3 か月（3～5 月）間の平均気温は、平年を下回ったものの、夏から秋にかけてかなり高い傾向で、8 月の月平均気温が平年より 1.9℃高い 30.1℃と歴代 1 位（統計開始 1881 年以降）を記録しました。一方、降水量は、春 3 か月（3～5 月）間は、561mm（平年の約 1.4 倍）、7 月は、梅雨前線などにより、425mm（平年の約 1.9 倍）と多雨になり、12 月 31 日は、大雪に見舞われ、月最深積雪 9cm と歴代 9 位（統計開始 1886 年以降）を記録しました。（図 2）

# 人口（人口と世帯数）

## 人口・世帯数

平成22年の国勢調査の結果では、平成22年10月1日現在の人口は、263万6092人と前回の国勢調査（平成17年）と比較すると1万1568人減、0.4%減と第1回国勢調査（大正9年）以来初めて減少に転じました。

市町村別にみると、木津川市で6112人増、京田辺市で3902人増と4市1町で増加し、京丹後市で3685人減、舞鶴市で3064人減と11市10町村で減少しました。

（図1、図2）

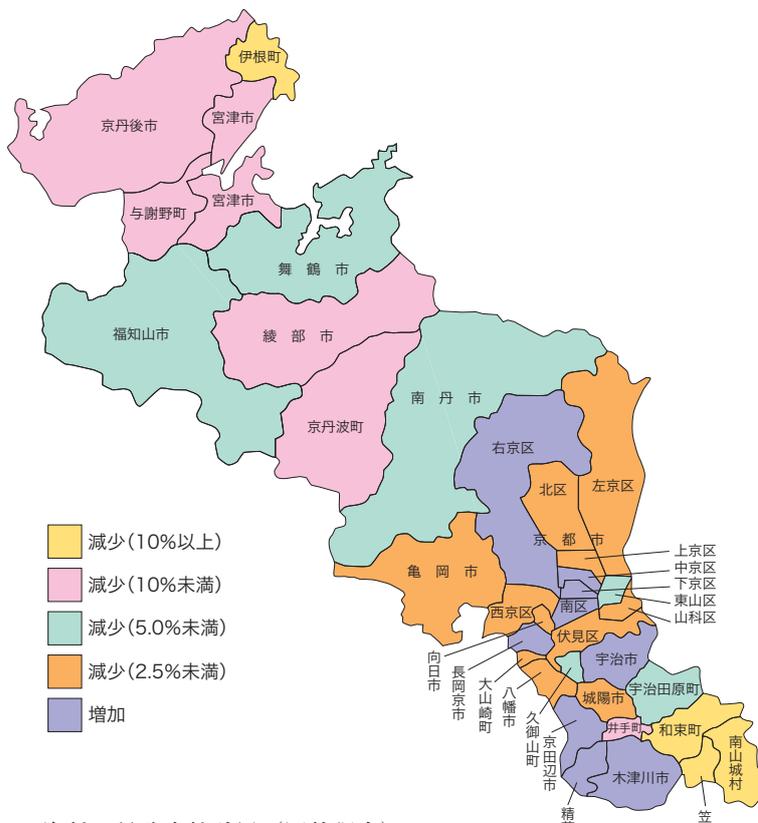
また、一般世帯数（注）は112万440世帯で5年前と比較すると5万6533世帯増、5.3%増と増加傾向が続いています。

一般世帯の1世帯当たりの人員は2.43人から2.31人と引き続き減少傾向にあります。

（図2）

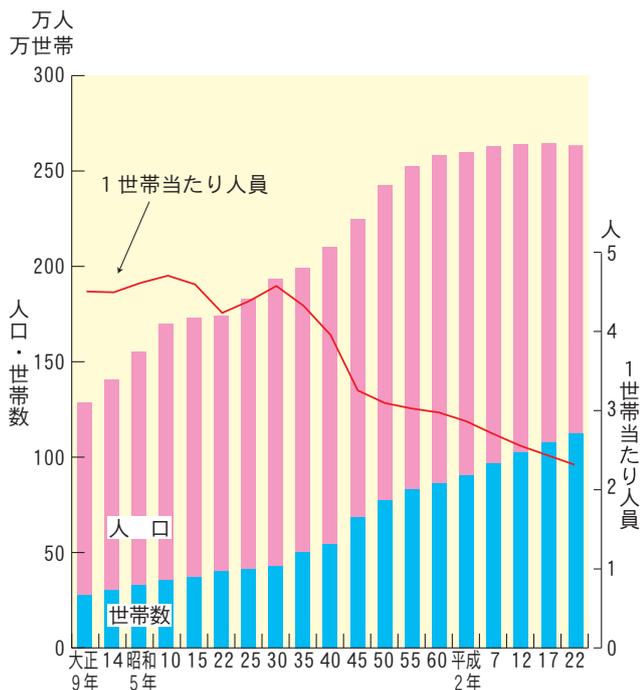
注 総世帯数から施設及び不詳を除く世帯数

図1 5年間の人口増減分布図（平成17年～平成22年）



資料：総務省統計局（国勢調査）

図2 人口と世帯数の推移

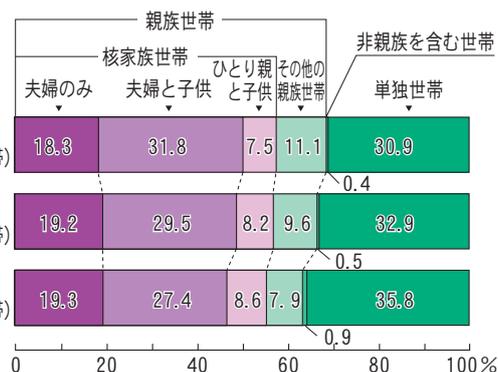


資料：総務省統計局（国勢調査）

## 家族類型別世帯数

平成22年の家族類型別世帯数をみると、一般世帯112万440世帯のうち核家族世帯61万8472世帯、単独世帯40万722世帯、その他の親族世帯8万8761世帯、非親族を含む世帯9613世帯となっており、単独世帯が増加しています。（図3）

図3 一般世帯の家族類型別割合の推移



資料：総務省統計局（国勢調査）

# 人口（年齢別人口）

## 年齢3区分別人口

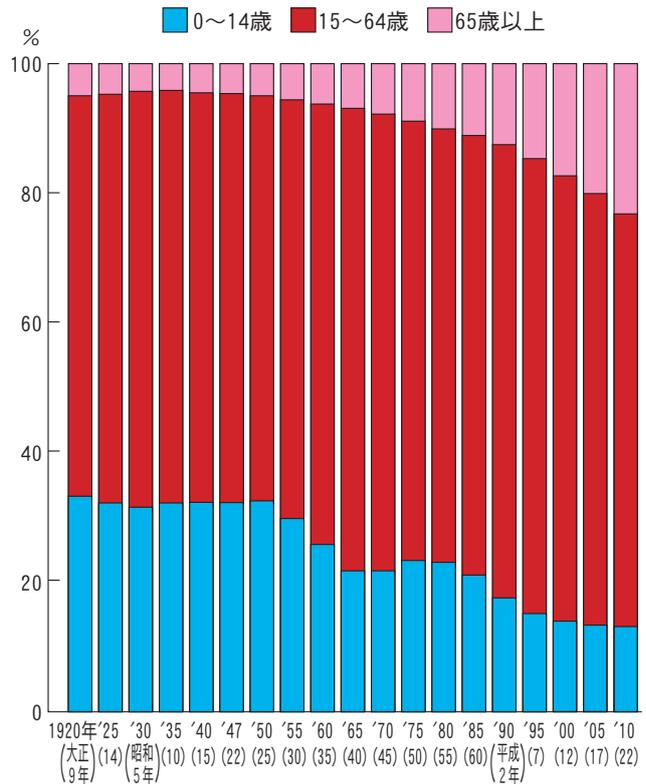
年齢3区分別人口の推移をみると、0～14歳の年少人口の割合は、昭和25年の32.4%から昭和40年の21.5%まで急速に低下した後、昭和50年にはやや上昇しましたが、昭和55年から再び低下を続け、平成22年には12.9%と過去最低の割合になりました。

15～64歳の生産年齢人口の割合は、昭和25年に62.5%まで低下した後は上昇を続け、昭和40年には71.5%となりました。その後緩やかに低下、上昇した後、平成12年から再び低下に転じ、平成22年には63.8%となりました。

65歳以上の老年人口の割合は、昭和15年の4.6%以降上昇を続け、昭和55年には10.2%と初めて10%台に、平成17年には20.2%と20%台に、今回平成22年でも23.4%と、人口の老年化が進行しています。

(図1)

図1 年齢3区分別人口割合の推移



注 年齢不詳を除く  
資料：総務省統計局（国勢調査）

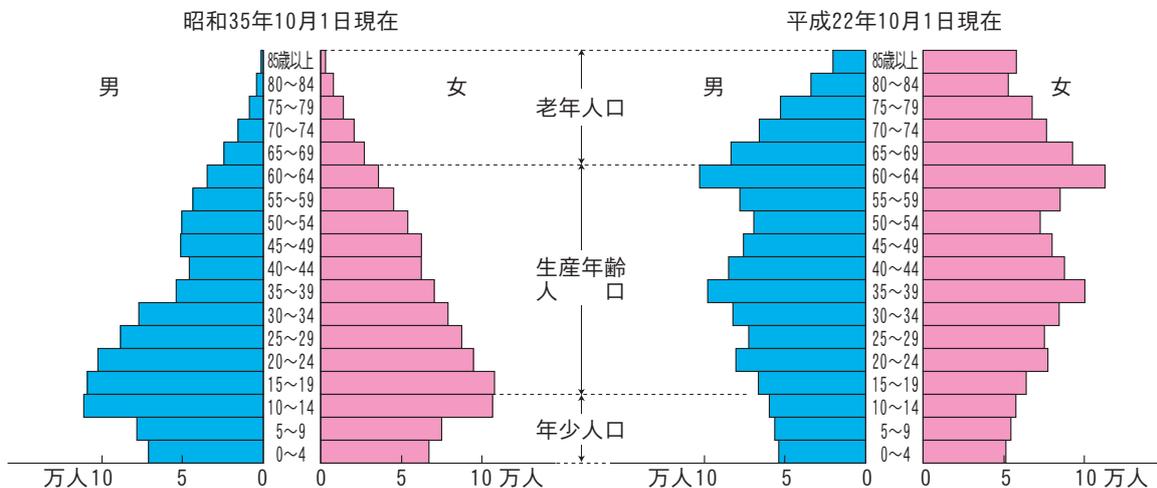
## 男女・年齢別人口

平成22年の年齢別人口を50年前の昭和35年と比較すると、年少人口は51万521人（男26万1656人、女24万8865人）から33万4444人（男17万924人、女16万3520人）と約7割に減少

しましたが、老年人口は12万6441人（男5万3337人、女7万3104人）から60万5709人（男25万7238人、女34万8471人）へと約5倍に増加しました。

(図2)

図2 男女・年齢別人口



資料：総務省統計局（国勢調査）

# 人口（人口動態）

## 自然動態（出生・死亡数）

平成 22 年の出生数は 2 万 1234 人、死亡数は 2 万 3714 人で、差し引き 2480 人の減少となっています。

出生数は前年より 176 人増加しましたが、平成 21 年に続き死亡数が出生数を上回りました。（図 1）

## 社会動態（他府県との転入・転出）

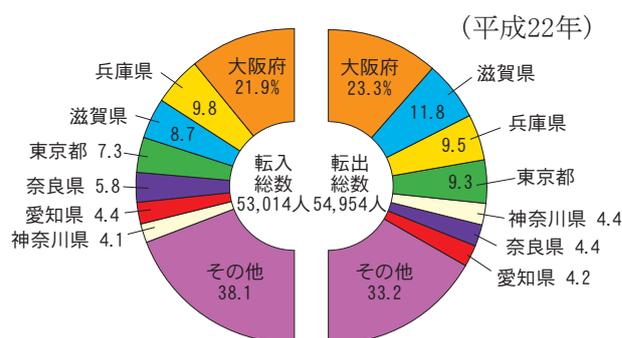
平成 22 年に他府県から京都府へ転入した人は 5 万 3014 人、他府県へ転出した人は 5 万 4954 人で、差し引き 1940 人の減少となっており、昭和 53 年以降は、昭和 57、58 年及び平成 7 年を除いて転出超過傾向が続いています。

府県別にみると、転入者は大阪府からが最も多く 1 万 1624 人、次いで兵庫県 5177 人、滋賀県 4605 人などとなっています。転出者も同じく大阪府へが最も多く 1 万 2805 人、次いで滋賀県 6474 人、兵庫県 5204 人などとなっています。（図 2）

## 婚姻・離婚率

平成 22 年の婚姻件数は 1 万 3664 組で、婚姻率（人口千対）は 5.3 となっています。一方、離婚件数は 4964 組で、離婚率（同）は 1.91 となっています。（図 3、図 4）

図 2 他府県との転入・転出状況（府県別割合）



資料：総務省統計局（住民基本台帳人口移動報告年報）

図 3 婚姻率の推移

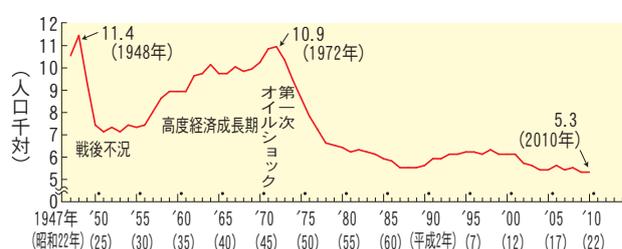
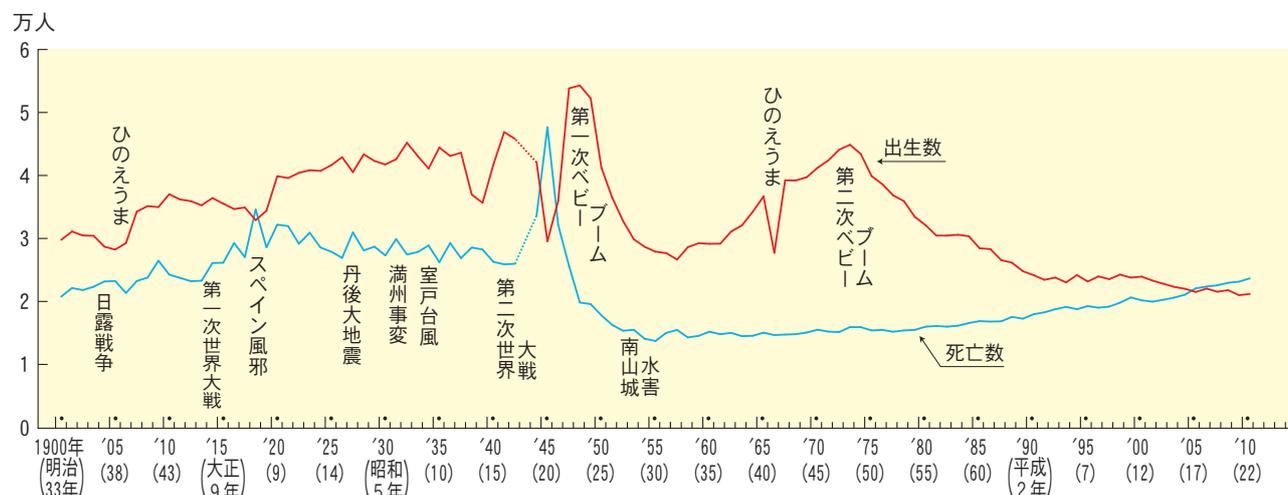


図 4 離婚率の推移



資料：府健康福祉総務課（人口動態統計）

図 1 出生・死亡数の推移



資料：府健康福祉総務課（人口動態統計）